

1 在宅医療の推進

No	事業名	活動指標	令和6年度実績	令和7年度実績	令和11年度目標
1	人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)の普及	人生会議普及のための講演会及び研修会の開催数	14回 (年間)	20回 (年間)	13回 (年間)

2 多職種による連携の強化

No	事業名	活動指標	令和6年度実績	令和7年度実績	令和11年度目標
1	医療と介護の連携拠点の機能充実	医療と介護の連携窓口の相談件数	297件 (年間)	265件 (年間)	指標変更検討
2	専門職の資質の向上と多職種の関係強化	多職種協働研修会の開催数	9回 (年間)	16回 (年間)	14回 (年間)
3	情報共有・提供体制の整備	MCSの登録者数	-	-	900人

1 認知症の人に対する正しい理解と「新しい認知症観」の普及、予防活動の推進

No	事業名	活動指標	令和6年度実績	令和7年度実績	令和11年度目標
1	市民に分かりやすい情報の発信	認知症に関心がある人の割合	調査実施なし	84.1%	90%
2	認知症サポーター養成の推進	認知症サポーター養成数	55,882人 (累計)	59,032人 (累計)	64,500人 (累計)
3	地域住民が主体的に取り組む介護予防活動の推進	介護予防に取り組む自主活動団体数	52団体	61団体	65団体 (活動団体数)

2 認知症の人にやさしい地域づくり

No	事業名	活動指標	令和6年度実績	令和7年度実績	令和11年度目標
1	オレンジカフェの設置	オレンジカフェ設置数	19カ所	19カ所	20カ所
2	認知症サポーター活動(チームオレンジ)の促進	チームオレンジ設置数	3団体	3団体	4団体

3 認知症の早期気づきと切れ目のない相談・支援体制の強化

No	事業名	活動指標	令和6年度実績	令和7年度実績	令和11年度目標
1	認知症に対する支援体制の推進	健診を受けた方が医療、支援に繋がった割合	—	—	数値検討中
2	地域包括支援センターの周知	地域包括支援センターを知っている人の割合	調査実施無し	69.3%	80%

4 認知症の人の意思尊重と権利擁護

No	事業名	活動指標	令和6年度実績	令和7年度実績	令和11年度目標
1	高齢者虐待の防止	高齢者虐待防止研修の実施回数	4回	3回	4回
2	成年後見事業の充実	市民後見人候補者名簿登録者数	45人 (年間)	42人 (年間)	46人 (年間)
3	成年後見制度の利用支援の推進	報酬助成件数	43件 (年間)	42件 (年間)	49件 (年間)

1 在宅医療の推進

区分	事業名	現計画期間中に実施した主な取組と評価	次期計画での取組
継続	在宅医療・かかりつけ医等の普及啓発	かかりつけ医等について、「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」の冊子に掲載することで市役所や市内の各施設、各駅に配置、市内郵便局への配置や民生委員に配布して周知を図った。	市民の在宅医療に対する不安を軽減するため、市ホームページに「在宅医療について」を掲載し、毎年、越谷市医師会と共催で市民講座を行います。 かかりつけ医等について、ホームページや「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」のチラシに掲載し、市役所や市内各駅に配置することで、普及啓発に努めます。 また、かかりつけ医等を持つことで、市民の健康保持につながるとともに、要介護認定の申請に必要な主治医意見書の作成依頼も容易になることから、引き続き普及啓発を行います。
継続	人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)の普及	地域包括支援センターや各団体からの依頼により、出張講座の回数を実施し、各地区センターを会場に地区単位で市民が参加出来るよう、主催講座を実施することで回数を増やすことが出来た。また、医師以外の専門職によるACPの登録講師の人数を増やし、人材育成を強化した。	人生の最終段階において、本人の意思をできるだけ反映したサービスを適切に選択できるよう、ホームページ等を活用した周知啓発や、市民を対象とした地域単位での講座や大規模講演会、医療・介護関係者を対象とした研修会を開催し、人生会議の考え方の普及に努めます。

2 多職種による連携の強化

区分	事業名	現計画期間中に実施した主な取組と評価	次期計画での取組
継続	医療と介護の連携拠点の機能充実	医療と介護の連携拠点として、専門職から様々な相談が寄せられている。月1回発行の窓口便りで相談事例の紹介や多職種協働研修の周知、在宅医療に係る新規事業所への訪問等、医療と介護の連携を推進できている。	専門職への相談支援のほか、多職種協働研修会、市民講演会、毎月発行の関係者向け広報の作成など、連携窓口の機能充実により、在宅医療・介護連携の強化を図ります。
継続	専門職の資質の向上と多職種の関係強化	多職種協働研修は年間10回以上開催しており、専門職の資質の向上と専門職間の連携を強化している。オンライン研修と対面研修を織り交ぜ、参加者が増えるよう工夫しながら、実施したことで様々な職種が参加することができている。	地域ケア会議や多職種協働研修、事例検討会の定期的な開催により、医療・介護関係者が双方の専門性や役割・機能を理解するなど専門職の資質の向上を図り、多職種の関係強化に努めていきます。 また、新たな参加者が増えるよう、事業所への周知を行いながら、開催時間の分散、研修テーマの選定など工夫し、医療・介護関係者が参加しやすいものとしします。
継続	情報共有・提供体制の整備	MCSの登録者数が増え、情報共有のツールとして活用されている。また、入退院支援ルールについては、令和4年に作成後、専門職による意見交換会を実施し、内容の見直しを行った。	医療・介護関係者が連携を図るための情報共有システム「MCS(メディカル・ケア・ステーション)」について、実際の事例を用いた研修会を開催し、登録者数の増加を図り、利用を促していきます。 また、入退院支援ルールについては、周知を進めていくとともに、内容の見直し等も含め、アンケートの実施や、医療と介護の関係者が定期的に集まる会議等で意見を伺いながら取り組んでいきます。

1 認知症の人に対する正しい理解と「新しい認知症観」の普及、予防活動の推進

区分	事業名	現計画期間中に実施した主な取組と評価	次期計画での取組
継続	市民に分かりやすい情報の発信	認知症支援ガイドブックは毎年度内容を見直し、医療機関、オレンジカフェ、郵便局などに配布しました。 認知症簡易チェックサイトは、Cityメールの配信などを計画的に行った結果、アクセス数が増加しました。また、チェック後に市の情報へ直接アクセスできるよう見直しを行い、啓発イベントに多くの参加がありました。 ニーズ調査では、認知症の相談窓口の認知度は22.8%で、令和4年度と比較して4.5ポイント増加したものの、依然として低く、必要な方に情報が届くよう、啓発方法を工夫する必要があります。	「認知症支援ガイドブック」に、認知症の症状やチェック方法、認知症の人と家族の思い、利用できるサービス、相談できる医療機関などの情報を掲載するとともに、定期的に見直し、内容の充実を図ります。 さらに、市民向け講演会のほか、認知症月間などに合わせた啓発活動を行政機関等で実施し、認知症に関する正しい理解の促進と相談窓口の周知を進めます。
継続	認知症サポーター養成の推進	自治会、郵便局、保険会社、地区センター等での開催に加え、小中学校や大学において認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に関する正しい理解の促進を図りました。 養成人数は目標値に達しませんでした。新たに講座の開催に至った団体も多く、受講者アンケートからも認知症に関する理解の変化が伺えることから、正しい理解が着実に広がっていると考えます。	市民向けをはじめ、小中学校、大学、認知症の人と接する機会が多い地域の金融機関や小売事業者等の企業を対象に、認知症サポーター養成講座を開催します。 また、一部の講座では認知症の人や家族による体験談を取り入れ、本人や家族の声を通じて認知症に関する理解を深めます。
再掲	地域住民が主体的に取り組む介護予防活動の推進	身近な通いの場の立ち上げ・継続支援、介護予防リーダーの育成、専門職による活動支援等を実施しました。 認知機能の維持や社会参加に資する地域活動として、越谷市認知症施策推進計画に位置づけるため、再掲します。	新たな通いの場の立ち上げや、通いの場への参加につながるよう、様々な媒体を活用し、通いの場に関する分かりやすい情報発信を行います。 また、専門職と連携しながら、介護予防リーダー養成講座を実施し、持続的な支援体制を強化することで、地域の介護予防活動の活力を保てるよう努めます。

2 認知症の人にやさしい地域づくり

区分	事業名	現計画期間中に実施した主な取組と評価	次期計画での取組
継続	オレンジカフェの設置	補助制度を見直して補助額を増額し、オレンジカフェ運営団体が活用しやすい制度としました。 また、地域ケア会議のテーマとして取り上げるなど、認知症に関する地域の理解を促進した結果、これまで設置のなかった日常生活圏域でオレンジカフェの立ち上げにつながりました。一方、13の日常生活圏域のうち、2圏域では未設置となっています。	認知症地域支援推進員による相談・助言、市内団体の交流会の開催、補助金の交付等により、オレンジカフェの運営を支援します。 また、認知症の人や家族の支援ニーズに応じ、参加しやすい場所・時間・内容で開催されるよう、未設置圏域への働きかけを行います。 さらに、認知症の人の居場所づくりを促進するため、オレンジカフェの取組を市民や医療・介護関係者等に広く周知します。
継続	認知症サポーター活動(チームオレンジ)の促進	「認知症サポータースキルアップ講座上級編」受講者の情報交換会においてチームオレンジやオレンジカフェの紹介を行い、立ち上げを促しました。 チームオレンジは、令和8年度、新たに1団体の立ち上げにつながったが、既存のチームオレンジ活動団体の申し出により、1団体が解散となったため目標値に達しませんでした。	ボランティア活動の意欲がある「認知症サポータースキルアップ講座上級編」受講者に、チームオレンジの取組を紹介し、意見交換を行いながら活動団体の立ち上げを促進します。 また、本人や家族の意見を踏まえた活動となるよう、市や地域包括支援センターがコーディネーターとして、立ち上がった団体への助言や関係者との調整などの活動支援を行います。
継続	本人ミーティングの開催	若年性認知症カフェ「がーやカフェ」や市役所において本人ミーティングを開催したほか、地域包括支援センター職員がアンケート形式で「認知症の人の声」を収集し、暮らしやすい地域の在り方について検討を進めています。	オレンジカフェをはじめとする地域の身近な場を活用し、認知症の人が自らの思いや希望を語り合う本人ミーティングを開催します。 また、ミーティング等で把握した本人の声や希望を、講座や展示等による啓発活動に生かすとともに、施策の企画・実施・評価や支援体制の見直しに反映し、本人の視点に立った施策を推進します。
継続	若年性認知症の人への支援	埼玉県オレンジ大使によるピアサポートは、計画期間の途中から実施できませんでした。若年性認知症カフェ「がーやカフェ」の開催を継続しました。 市内外から参加があり、若年性認知症の人の生活上の特徴を踏まえた情報交換が行われるなど、本人や家族の居場所づくりにつながっています。また、市内の専門職を対象とした研修会に埼玉県若年性認知症コーディネーターを講師として招き、多職種が連携して支援する体制づくりを進めました。	若年性認知症カフェ「がーやカフェ」を開催し、若年性認知症の人や家族が情報交換や交流を行う居場所づくりを進めます。 また、本人や家族の希望を踏まえ、埼玉県若年性認知症コーディネーター等と連携し、就労や社会参加など、必要な支援につなげます。
新規	認知症の人等見守り支援事業	認知症の人の増加に伴い、行方不明となるおそれのある人への支援ニーズが高まっています。現在実施しているGPS端末を貸与する「認知症徘徊高齢者家族支援サービス事業」に加え、関係機関等との連携による地域の見守り体制を充実する必要があるため再掲します。	「認知症徘徊高齢者家族支援サービス事業」により、GPS機能付き端末を貸与し、認知症の人の所在が分からなくなった際に家族へ位置情報を提供し、速やかな保護につなげます。 また、関係機関等と連携し、行方不明時の早期発見・早期対応につながる地域の見守り体制の充実を図ります。
再掲	避難行動要支援者支援制度	災害時に自ら避難することが困難な人について、平常時から避難支援・安否確認につながる体制づくりを実施しました。 災害時の避難に支援を要する認知症の人の安全確保に資する取組として、越谷市認知症施策推進計画に位置づけるため、再掲します。	制度の周知、名簿情報の適切な管理・更新、関係部署及び関係機関との連携強化を図るとともに、制度登録者の個別避難計画の作成を進めます。

3 認知症の早期気づきと切れ目のない相談・支援体制の強化

区分	事業名	現計画期間中に実施した主な取組と評価	次期計画での取組
拡充・ 充実	認知症に対する 支援体制の推進	医療や介護サービスを利用していない認知症の人や認知症が疑われる人に対し、早期診断・早期対応に向け、地域包括支援センターによる相談・訪問を行ったほか、困難事例においては、認知症初期集中支援チームによる集中的支援を行いました。	認知症健診等により支援が必要と考えられる人が、相談、医療、介護、地域の居場所、家族支援等につながる体制づくりを進めます。 また、認知症専門医と各地域包括支援センターの医療・介護の専門職で構成する認知症初期集中支援チームが、必要な医療や介護の導入調整と家族支援等の初期支援を集中的に行います。 さらに、各地域包括支援センターに配置した認知症地域支援推進員が、認知症の人や家族、地域住民からの相談に応じるとともに、医療・介護の関係機関や地域の関係団体等との連携強化を図ります。
再掲	ケアラー支援体制 の推進	関係機関向け手引き、当事者向けガイドブック、ケアラー支援推進員、多機関連携の仕組みを整備しました。 認知症の人を介護するケアラーの負担軽減と孤立防止に資する取組として、越谷市認知症施策推進計画に位置づけるため、再掲します。	ケアラーに早期に気づき、適切な支援につなげられるよう、市職員や専門職を対象に「ケアラー支援の手引き」を活用した研修等を実施し、対応力の向上を図ります。 また、ケアラー本人の気づきを促し、相談・支援につながるよう、「ケアラー支援ガイドブック」の周知・活用を進めます。
再掲	家族介護支援事業	家族介護講演会、介護者サロンの周知、介護マークの普及等を実施しました。 認知症の人を介護する家族等への支援は、本人の生活継続と家族介護者の負担軽減・孤立防止の両面から重要であるため、越谷市認知症施策推進計画に再掲します。	家族介護講演会を開催し、介護への向き合い方等の介護に必要な情報の提供を行うとともに、介護者同士が気軽に集まり、悩み・不安の共有や介護に関する情報の交換を行うことができる「介護者サロン」の周知を行い、家族介護者の孤立防止を図ります。 さらに、介護マーク普及事業を実施し、介護マークの普及を通じて介護者への理解促進を図り、安心して介護ができる環境づくりを進めます。
再掲	地域包括支援セン ターの周知	13か所の包括を高齢者の総合相談窓口として運営し、認知症の本人・家族等への相談支援を実施しました。 地域包括支援センターは、認知症に関する身近な相談窓口であり、早期の相談・支援への接続に重要であるため、越谷市認知症施策推進計画に再掲します。	広報紙やホームページ、SNS等を活用した情報発信に加え、地域の集まりや関係機関への周知を行うことで、高齢者本人だけでなく家族や支援者にも相談先が伝わるよう、周知啓発に取り組みます。

4 認知症の人の意思尊重と権利擁護

区分	事業名	現計画期間中に実施した主な取組と評価	次期計画での取組
再掲	高齢者虐待の防止	養護者及び養介護施設従事者等による虐待について、普及啓発、相談対応、関係機関との連携、法令に基づく対応を実施しました。 認知症の人の尊厳と権利利益を守るため、虐待の未然防止、早期発見・早期対応に資する取組として、越谷市認知症施策推進計画に位置づけるため、再掲します。	養護者等による虐待については、民生委員や自治会、介護支援専門員等との連携を図り、早期把握と相談支援を行います。また、養介護施設従事者等による虐待については、関係機関と連携し、通報対応、事実確認、虐待防止研修等を通じて施設職員への普及啓発を行うとともに、再発防止に取り組みます。 虐待が疑われる事案については、速やかに事実確認を行い、必要に応じて高齢者の安全確保や老人福祉法に基づく措置等の適切な対応を行います。
再掲	成年後見事業の充実	制度周知、利用相談、専門職団体との連携、市民後見人候補者・受任者への研修と相談支援を実施しました。 成年後見制度の利用促進と、地域における権利擁護支援の担い手の育成に資する取組として、越谷市認知症施策推進計画に位置づけるため、再掲します。	成年後見制度の利用を促進するため、法律や福祉等の専門職団体との連携のもと、ケース検討会議等を実施し、支援方法の検討等を行うとともに、福祉関係者向け研修会を開催するなど、地域の関係機関・団体等との連携強化を図ります。 また、市民後見人候補者及び受任者への研修を実施するなど、市民後見人の活動支援を行います。
再掲	成年後見制度の利用支援の推進	個別の状況に応じ、市長申立、報酬助成等により制度利用を支援しました。 本人の意思決定支援を基盤とした権利擁護と、成年後見制度の利用支援に資する取組として、越谷市認知症施策推進計画に位置づけるため、再掲します。	関係機関及び専門職団体等と連携し、相談支援、早期把握、ケース検討、「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン(第2版)」に基づく意思決定支援及び権利擁護支援チームによる支援を行います。 また、家庭裁判所への申立てが困難な人に対し、必要に応じて親族に代わって申立てを行う市長申立や、家庭裁判所が決定した成年後見人等の報酬の支払いが困難な人に対する報酬助成等を実施します。
再掲	みまもり・あんしん事業	親族を頼ることが難しい一人暮らし高齢者等へ、見守り、生活支援、入院時支援、葬儀・埋葬等の支援を実施しました。 親族を頼ることが難しい認知症の人等の地域生活の継続と権利擁護に資する取組として、越谷市認知症施策推進計画に位置づけるため、再掲します。	将来に不安を抱える高齢者等からの相談に応じ、元気な時から地域とのつながりをつくりながら、安心して地域で生活できるよう支援します。
再掲	消費生活講座の開催	悪質商法、特殊詐欺、相談窓口等について、講座・講演会・出張講座で周知しました。 判断能力の低下に伴う消費者被害の防止に資する取組として、越谷市認知症施策推進計画に位置づけるため、再掲します。	消費者被害の未然防止を目的に、消費生活講座・講演会を開催するとともに、自治会等の申請に基づき、消費生活相談員や職員を出張講座の講師として派遣します。 また、認知機能の低下に伴う消費者被害の特徴を踏まえ、関係機関と連携して注意喚起と相談先の周知を行います。